

東久留米市立第六小学校 第3学年

教科	学力に関する各調査に基づく児童の学習状況分析 (数値等で具体的に示す)	具体的な授業改善策及び目標値 (数値等で具体的に示す)
国語	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>①事実と感想、意見との区別を明確にして、自分の考えを書く。 ②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。 ③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。 ④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。</p> <p>◇文章を書くことが好きな児童10%と、一方、書くこと自体に抵抗があり考えを書くことに課題の見られる児童が5%いる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えや感想等を文で書く時間を設定する。その中で、段落や句読点等基本の書き方を指導する。支援が必要な児童には、例文や手本を提示する。また、それぞれの課題に合わせて、何種類かのワークシートから児童が選ぶようにする。 →100～200字程度の作文を正しい表記で書くことができる。(目標値:75%以上の児童) →「始め、中、終わり」の構成や段落を意識して文章を書く。(目標値:75%以上の児童) 朝学習で漢字や短文づくりをの定着を図る。 →漢字のミニテスト、学期末の漢字テストで見取る。(目標値:平均80%以上)
算数	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。 ③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。 ④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査(算数)学力調査から「変化と関係〔正答率62.8%〕、データの活用〔正答率63.9%〕」</p> <p>◇東京ベーシックドリルから学習の定着率(正答率)の二極化(正答率8割以上30%、正答率2割未満15%)</p> <p>◇基礎的な計算の理解、正確さに関して、個人差が大きい。(十分理解していると判断できる児童30%、課題の見られる児童10%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間、既習事項を根拠に自分の考えを書く時間を確保する。 立式の意味を自分なりの言葉や図などを用いて、説明したりノートに書いたりする時間を確保する。 週1回の朝学習で、Eライブラリーを活用し、基礎計算を繰り返し練習する。また、必ず、自己評価を行い、課題点を振り返り、次回の学習で取り組むようにする。 →ワークテストの計算問題や、Eライブラリーの確認テストから見取る。(目標値:正答率の平均80%以上)
理科	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>②根拠や結果、判断理由を基に自分の考えを書く。 ③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。 ④自分の考えが伝わるよう、必要な情報を取り出して書く。</p> <p>◇全国学力・学習状況調査(算数)学力調査から「変化と関係〔正答率62.8%〕、データの活用〔正答率63.9%〕」</p> <p>◇身近な自然や科学事象に対する興味・関心や生活経験・知識に個人差が大きい。(興味・関心が高く生活経験や知識も豊富な児童が10%、課題の見られる児童が5%)</p>	<ul style="list-style-type: none"> イラストや図を使って、しくみや現象について整理して示し、学習した理科の用語を使って予想や結果、考えを書くよう指導する。 →知識及び技能について確認するワークテストやワークシートから見取る。(目標値:正答率の平均75%以上) 実物に触れて観察、体験をする活動を多く取り入れたりと、画像や動画等、ICT機器も活用したりして、目で見て確かめ、理解を深める。 →実験・観察前後のノートや観察カードで評価する。(目標値:知識の理解や問題解決への関心が高まった児童80%以上)
特別の教科 道徳	<p>◇全国学力・学習状況調査(国語)から「書く力」 〔正答率R3:58.3% R4:57.7% R5:28.3% R6:79.8%〕</p> <p>③他者の意見や考えを基に自分の考えを書く、他者の意見や考えから自分の考えを書き直す。</p> <p>◇まずは自分の考えをもつことができ、それを文や挙手などで表現できるようにすることが課題である。いろいろな考え方に触れ、道徳的事項に関して自分事として、より深く考えられるようにする必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 毎時間の教材提示や発問内容、授業展開を工夫し、自分事として考えられるよう、自分の考えを書く時間を必ず設定する。 ペアやグループでの話し合いや全体で共有する時間を取り入れることで、自分の考えに近いものを見つけたり、考えの違いやそれぞれの良さをに触れる機会をつくる。 →自分の考えを友達の考えと比べて聞くことができる。(目標値:70%以上の児童)